

## 義農作兵衛

作兵衛さんは、今からおよそ 330 年前、1688 年（元禄元年）、筒井村（今の松前町筒井）の農家に生まれました。

父作平、母ツルの一人子でした。生活はまずしかったけれど勤勉な性格で、昼は田畑で米や麦作りなどにはげみ、夜は縄をなえ、わらじを作るなどよく働きました。

23 さいのときには、タマと結婚し、長男作市、長女カメが生まれ、作兵衛さんはますます仕事にはげみました。40 さいころまでには、自分の田畑 33 アールと、小作地（地主から借りている田畑）15 アールを持ち、村の人々のお手本となる百姓になりました。

1732 年（享保 17 年）、西日本全体が大きなきんにおそわれました。3 カ月も雨の多い天気の良い日が続いたうえ、夏になっても気温が上がらず、いねが育ちませんでした。そのうえ、ウンカが大量に発生していねを食べつくしました。松前地くのひがいはとても大きく、野に青草が一本もなしといわれるくらいでした。食べ物がなくなり、松前地くでうえ死する人が 800 人をこえました。6 月 10 日には父作平、8 月 5 日には長男作市がうえ死をしました。母と妻はすでになくなっており、家族は作兵衛さんとむすめのカメだけになってしまいました。悲しみとうえに打ちひしがれた作兵衛さんでしたが、氣力をふりしぼって田畑に仕事にでかけました。しかし、ついにたおれてしまいました。さいわいなかまに助けられ、家にも



どることができました。家には、麦がおよそ一斗（18リットル）が残されていました。作兵衛さんは、この麦を食べることをすすめられました、「<sup>のうぎょう</sup>農業は国を支える大切なものです。作物の種<sup>たね</sup>は農業の本<sup>もと</sup>です。村に麦種<sup>たね</sup>がなくては、来年、田に麦を植<sup>う</sup>えることができません。麦種は自分の命<sup>いのち</sup>より大事です。」と人々に伝え、1732年（享保17年）9月23日、麦種をまくらにしてなくなりました。10月2日には、長女カメもうえ死し、作兵衛さんの一家全員が、享保<sup>きょうほう</sup>の大ききんのぎせいになりました。

村人たちは作兵衛さんが残してくれた麦種を分け合っ  
てまき、よく年はほう作になりました。

作兵衛さんのことは松山藩<sup>はん</sup>に  
伝えられ、12月24日には、藩の  
命令で、「義農」と名づけられた作  
兵衛さんの墓が作られました。



1776年（安永<sup>あんえい</sup>5年）には、作兵  
衛さんの生き方に感動した松山藩<sup>はん</sup>の殿様<sup>とのさま</sup>、松平定静<sup>まつだいらさだきよ</sup>によ  
り、碑文<sup>ひぶん</sup>がつけられました。

その後も、人々は作兵衛さんの生き方を見習い、のち  
の世に伝えようと、義農神社をつくり毎年4月23日に義  
農祭<sup>さい</sup>を行っています。松前町の人々は、今も作兵衛さん  
の心を「義農精神」として受け継ぎ、ボランティア活動な  
どを行っています。

※ 1アール・・・一辺が10mの正方形の広さ

※ ウンカ・・・いねの害虫となる体長5mmほどのこん虫